

研究開発学校指定(令和3年度～令和6年度)

自己実現に向かう 児童生徒の育成

岐阜大学教育学部附属小中学校

1. 設定の根拠 — 児童生徒の実態や今日的課題から

学校の

教育目標具現

「独歩・信愛・協働」

- 自分らしく
- 人とのつながり
- 貢献できること

各種調査から

- 自己有用感の低さ
- 人の役に立ちたいが、なかなか行動に移すことができない

これからの

社会を生き抜く

- 多様な価値観の理解
- 自分で幸福を実現していく

多様化・狭小化する価値観

- 違う価値観に対する排他的な姿勢
- 生活環境の変化

自分が役に立ったと思える経験の場の創出

価値観に触れたり、受け入れたりする場の創出

多様な価値にふれ、自分自身の価値観を更新し、自己実現に向けて取り組む経験を積むことができる場をつくること

2. 目標の設定 — 「自己実現に向かう」とは

多様な価値にふれ、自分自身の価値観を更新し、**自己実現**に向けて取り組む経験を積むことができる場をつくること

予見不可能な未来社会において、自分らしく生きるため、一人一人が「自分はどう生きるか」を問い続け、納得解や最適解を求め学び続ける

自己実現に向かう児童生徒の育成

2. 目標の設定 – 研究主題について

自己実現に向かう児童生徒

- 自分の願いをもって、願いを達成するために学び続ける子
- 他者の考え方に共感し、人・もの・こととのジレンマやエラーを解決していく子
- 自分のよさを生かして、人や社会に貢献していく子

2. 目標の設定 – キーワード「ジレンマ」「エラー」とは

ジレンマ: 2つ以上の価値での葛藤

エラー: うまくいかないこと・乗り越えるべき壁

- 探究的な学びの中で顔を出してくるもの
 - 学習計画を立てる際に、出来得る限り想定する
 - 教師は「児童生徒の伴走者」として、共に乗り越える存在

2. 目標の設定 — 自己実現に向かうための資質・能力

問題解決力

実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現するなど、どんな状況でも自分で何ができるのかを考え、困難を乗り越えて行動する。

関係構築力

他者を受容して共感的に理解し、他者と力を合わせて考え、行動することができる。

貢献する人間性

自分らしさを生かし、自分や他者、社会をよりよくするために行動しようとする。

学習の基盤となる資質・能力 として捉えて設定

2. 目標の設定 — 自己実現に向かうための資質・能力を育む場の設定

問題解決力

実社会・実生活にあるテーマを
探究的に学ぶ場

関係構築力

ジレンマやエラーに対して
他者と道徳的な議論をする場

貢献する人間性

自分と社会に夢と責任を
もって行動する場

新領域 「どう生きるか」

3. 学習内容の体系化 — 新領域「どう生きるか」の目標

実生活や実社会の課題を自分ごととして解決する過程において、ジレンマやエラーを乗り越え、自己の在り方や生き方についての考えを深め、個人の体験や経験、客観的な情報や科学的根拠、道徳的諸価値を基に、主体的・協働的に納得解や最適解を導いていくことを通して、自己実現に向かうための資質・能力を育成する。

3. 学習内容の体系化 — 「どう生きるかの学び」とは(イメージ図)

児童生徒主体の

これからの社会を生き抜く資質・能力を
身に付ける学び

- 探究テーマを自ら設定し、探究過程内で修正しながら進める
(切実感・必然性のある自分ごとで解決に向かう学習内容)
- 「人・もの・こと」との出会いを重ね、レリバンスを高める
- ジレンマやエラーに対峙したとき、道徳的諸価値をもとに判断にし、納得解や最適解を導く
- 内省の時間を設定し、自分の生き方を見つめる



- ・自分の願いをもって、願いを達成するために学び続ける子
- ・他者の考え方に共感し、人・もの・こととのジレンマやエラーを解決していく子
- ・自分のよさを生かして、人や社会に貢献していく子



どう生きるかの学び

自己実現に向かうための資質・能力(学習の基盤となる資質・能力)

「問題解決力」

自分で問題を見出し、何ができるのかを考え、行動する！

「関係構築力」

他者を受容し共感的に理解して、力を合わせて考え、行動する！

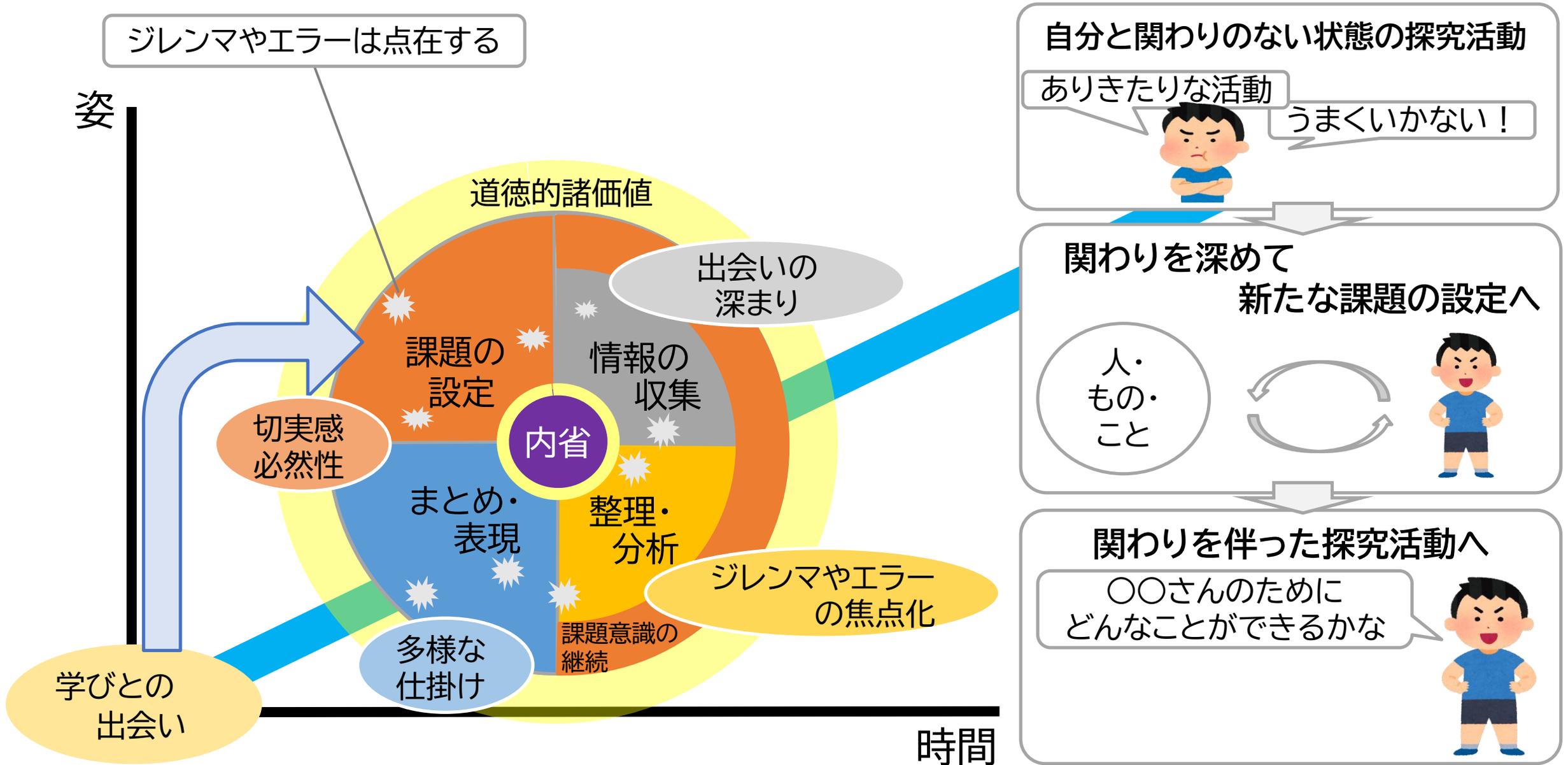
「貢献する人間性」

自分らしさを生かし、社会などをよりよくするために行動する！

幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」

+ 学習指導要領に示す資質・能力

3. 学習内容の体系化 — どう生きるかの学習過程



3. 学習内容の体系化 — キーワード「レリバンス」とは

レリバンス：自分との関連や関係、関わり

- レリバンスを高めることで課題が変わる。

「まちのために何かしよう」

→ 「自分の住んでいるまちのために何かできることはないかな」

→ 「自分の住んでいるまちをよくしてくれようとしている〇〇さんのために何かできることはないかな」
- レリバンスを高めるために、「人・もの・こと」と関わり続ける。深く関わる。

→ 相手のことを知る。仲良くなる。

→ 困っていることなどの本音を聞ける。

→ 「何かできないかな。」

体験・発見・ほっとけん

対象の吟味が必要

3. 学習内容の体系化 — R5年度 5年生の実践

- 「暮らしとはなんだろう？」 → 一人一人の暮らしのあり方に違い
- フィールドワークで情報を集めると、高齢者も元気で幸せに暮らしていることが見えた。

「そんなはずない！元気な高齢者だけではなくて、本当に体が不自由だったり、寂しい人もいるのでは？」

- 「元気ではない高齢者の方の暮らしとは？」という問い
- 繰り返し施設にいる高齢者と関わり続け、児童と高齢者の仲は深まる

『さみしい』『楽しいことがない』という言葉が心に残ってなくなる



- 「〇〇さん(特定の相手)」と関わり続けることで、「〇〇さんのニーズに合ったプロジェクトになり、〇〇さんの幸せな時間をつくろう！」

「〇〇さんのニーズに合ったプロジェクトになった」
「〇〇さんの幸せな時間をつくるお手伝いできた」
「周りを見渡すとさみしい方がいるけど、これでよいのかなあ」
「全員を相手に設定するとニーズに合わない」

- 学びの対象との出会いから**課題の設定**
- **切実感**のある学び

- **出会いの深まり**(情報の収集)

- 上手くいかないこと(=エラー)に出会う

- **プロジェクト活動の設定**

- **達成感**と新たな**ジレンマ**や**エラー**・**レリバン**スを伴った活動

3. 学習内容の体系化 — どう生きるかの特徴「学びのカテゴリー」

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
カテゴリー	遊び	野菜	花	動物	暮らし	まちづくり	社会	社会に生きる	

学年	特別支援学級 1～4年生	特別支援学級 5～7年生	特別支援学級 8～9年生
カテゴリー	遊び・生活づくり	地域・情報	進路・余暇

- 児童生徒の実態・学校の環境・発達の段階を踏まえ、各学年で道徳的諸価値を導入したとき、探究活動を深める可能性の高い対象の分類
- 成果や課題を基にして、柔軟に設定を変えられる性質をもつ

3. 学習内容の体系化 — カリキュラムを形作るもの

- **構成概念**…カテゴリーの学びをはっきりさせること
- **学習内容**…①カテゴリー名から想起できる内容である
②主体的な学びが保障される枠組みである
- **特徴**
…実践の中で見えてきた、各部における学びの特徴
- **出会い**
…過去の実践から出会った対象(人・もの・こと)のまとめ

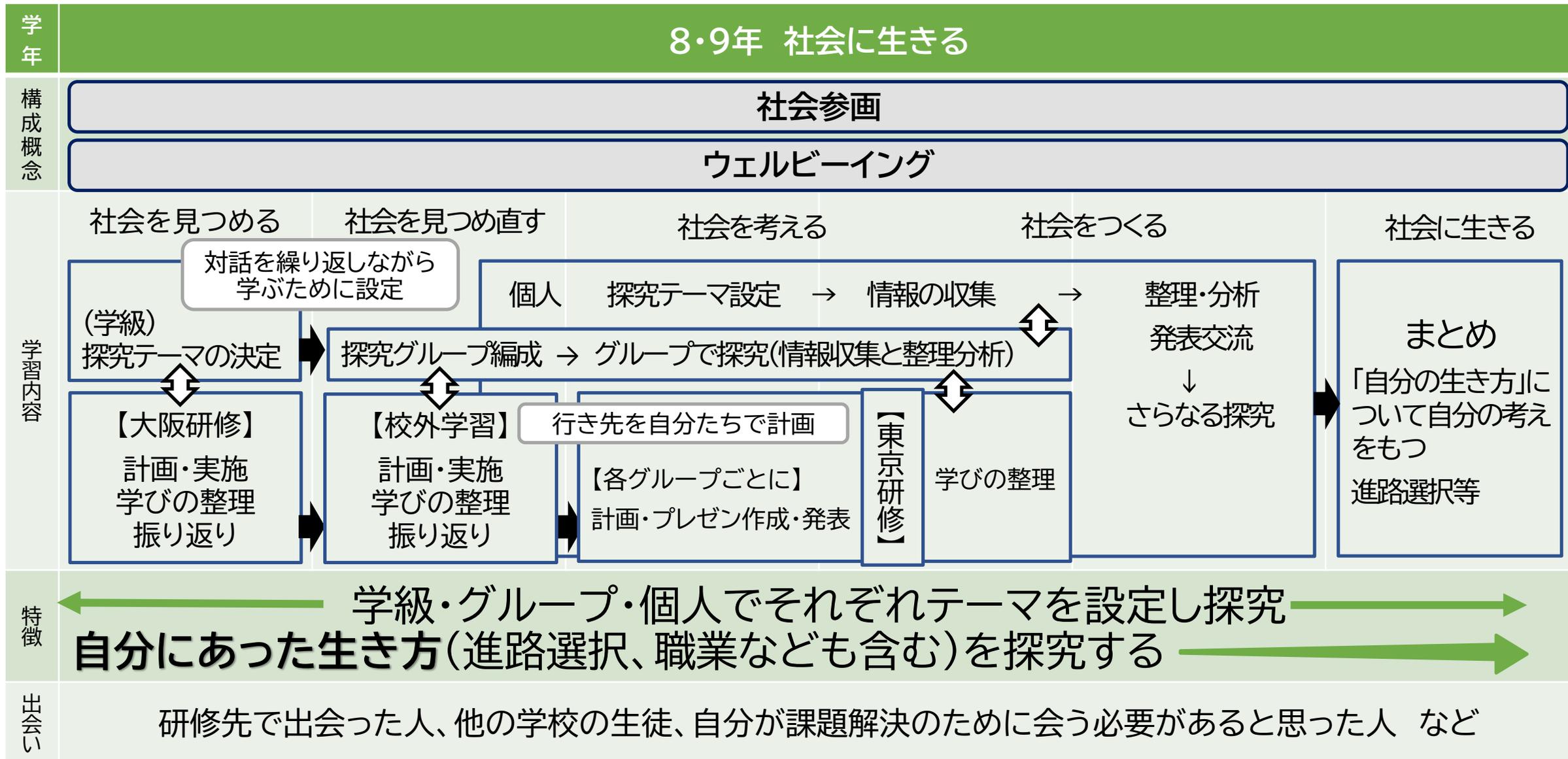
3. 学習内容の体系化 — カリキュラムの全体像(Ⅰ部)

学年	1年 遊び			2年 野菜		3年 花		4年 動物	
構成概念	試行錯誤			献身性					
	充実感				有限性				
学習内容	年間通じた遊び (季節・生き物)			夏野菜 づくり	冬野菜 づくり	花を育てる 花壇をつくる		動物を飼育する	
	探検	集団 遊び	遊びに 招待	作った野菜を 通して全校へ 働きかける		育てた花を 通して全校へ 働きかける		動物との 関わり方を 考える	
特徴	<p style="text-align: center;">生命性を大切にした学び</p> <p>関わりの広がり(自分と具体物、自分と他者との関わり)</p>								
出合い	自分と 仲間	他学級 他学年	新1年	家族	全校(特定の相手に対して、または全校の仲間に対して) 専門家(教師の支えで見つける → 自分たちで見つけてくる)				

3. 学習内容の体系化 — カリキュラムの全体像(II部)

学年	5年 暮らし	6年 まちづくり	7年 社会
構成概念	共感		
	多様性		
学習内容	<p>幸せな暮らしとは？</p> <p>フィールドワーク(宿泊研修含)と話し合い活動 対象と深く、繰り返し出会う</p> <p>プロジェクト活動計画 → プロジェクト 具体化・実践・振り返り</p>	<p>自分のまちのよさって何？</p> <p>フィールドワーク(宿泊研修含)と話し合い活動 対象と深く、繰り返し出会う</p> <p>プロジェクト活動計画 → プロジェクト 具体化・実践・振り返り</p>	<p>社会とは？(社会を知る)</p> <p>身近な問題と向き合う →多様な価値観をもつ人と出会う</p> <p>プロジェクト活動計画 → プロジェクト 具体化・実践・振り返り</p>
	特徴	<p>身近な関わりから社会との関わりへ (「社会の中で生きる自分」へつなげる)</p> <p>自分本位の考え方 → 良心や倫理観に従った考え方</p>	
出合い	自分たちの身の回りにいる人 (高齢者、障がい者、外国の方等)と 関わりの深い方・専門家等	まちづくりに携わる人 (まちに住む人、商店街で働く人等)	多様な価値観をもつ人(環境問題に 取り組む人、動物の命に向き合う人、 障がい者等)

3. 学習内容の体系化 — カリキュラムの全体像(III部)



3. 学習内容の体系化 — カリキュラムの全体像(特別支援教育)

部	I部		II部		III部	
学年	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年	第7学年	第8学年	第9学年
学びの カテゴリー	遊び・生活づくり		地域・情報		進路・余暇	
構成概念	繰り返し関わる		関わりを広げる		生きがい	
	充実感				将来	
関わり の 広がり	個 身近な大人 → 学級		4組の仲間 交流学級・学年 → 学校		身近な地域 → 岐阜市や 岐阜県... → 進路 将来のこと	
特徴	児童・生徒が、それぞれの生活場面において、願いをもち、周囲の人・もの・ことと関わることを有益だと感じながら、新たな体験をしたり、自分の好きなことを追究したりする姿を目指す					
主な 道徳的 諸価値	よりよい学校生活	友情・信頼	感謝	郷土の伝統と 文化の尊重 郷土を愛する態度	向上心 個性の伸長	希望と勇気 克己と強い意志

4. カリキュラム評価 — 自己評価アンケート

「どう生きるか」における学習の効果を測定するための「自己評価アンケート」質問項目

問題解決力

- ① 学校や普段の生活の中で、問題を解決する方法を自分で考えて行動することができていますか。
- ② 学校や普段の生活の中で、上手いいかないことがあっても、あきらめずに最後までやり抜くことができていますか。
- ③ 問題解決する中で、様々な見方や考え方をもち、取り組むことができていますか。

関係構築力

- ④ 相手と活動するときに関心の思いや考えを受け入れながら、聞くことができていますか。
- ⑤ 自分の気持ちや考えが相手に伝わるように、伝え方を工夫していますか。
- ⑥ 周りの人との考え方や感じ方の違いを大切にして、力を合わせて取り組んでいますか。

貢献する人間性

- ⑦ お互いのよさや得意なことを認め合い、生かすことができていますか。
- ⑧ 誰かを進んで助けたり、支えたりしていますか。
- ⑨ 地域や社会のために進んで貢献していますか。
- ⑩ 人や社会に貢献することを通して自分の成長を実感することはありますか。

- ⑪ あなたにとって大切にしたい生き方は何ですか。そのわけもくわしく教えてください。(記述)

「とてもそう思う」「少しそう思う」「あまり思わない」「まったく思わない」の4件法で実施

4. カリキュラム評価 — 自己評価質問紙調査(児童生徒の評価)

「とてもそう思う」+「少しそう思う」	R3.10	R4.11	R5.11	R6.7
問題解決力・主体性	94%	93%(+1)	94% (+1)	94%(±0)
問題解決力・粘り強さ	91%	92%(+1)	92% (±0)	93%(+1)
問題解決力・アプローチの多様性	88%	89%(+1)	89% (±0)	90%(+1)
関係構築力・他者理解	96%	94%(-2)	95% (+1)	94%(-1)
関係構築力・対話の仕方	91%	90%(-1)	90% (±0)	91%(+1)
関係構築力・協働性	94%	93%(-1)	92% (-1)	92%(±0)
貢献する人間性・自他の価値	92%	93%(+1)	93% (±0)	94%(+1)
貢献する人間性・積極性(他者)	92%	94%(+2)	92% (-2)	92%(±0)
貢献する人間性・積極性(社会)	74%	77%(+3)	78% (+1)	81%(+3)
貢献する人間性・自己有用感	84%	81%(-3)	85% (+4)	84%(-1)

4. カリキュラム評価 – 自己評価質問紙調査(児童生徒の評価)

「とてもそう思う」 ()内はR3年度からの伸び	R3.10	R4.11	R5.11	R6.7
問題解決力・主体性・8年生	33% (5年)	41%(+8) (6年)	41%(+8) (7年)	46%(+13) (8年)
関係構築力・対話の仕方・6年生	45% (3年)	54%(+9) (4年)	56%(+11) (5年)	65%(+20) (6年)
関係構築力・対話の仕方・8年生	49% (5年)	47%(-2) (6年)	53%(+4) (7年)	59%(+10) (8年)
関係構築力・協働性・8年生	60% (5年)	55%(-5) (6年)	60%(±0) (7年)	72%(+12) (8年)
貢献する人間性・自他の価値・6年生	54% (3年)	57%(+3) (4年)	59%(+5) (5年)	69%(+15) (6年)

4. カリキュラム評価 – 自己評価質問紙調査(保護者の評価)

「とてもそう思う」+ 「少しそう思う」	R3.10	R4.11	R5.11	R6.7
話題になる	77%	75%(-2)	79%(+4)	75%(-4)
大切である	96%	98%(+2)	99%(+1)	98%(-1)
主体性	83%	90%(+7)	91%(+1)	88%(-3)
粘り強さ	84%	83%(-1)	86%(+3)	84%(-2)
アプローチの多様性	76%	89%(+13)	90%(+1)	90%(±0)
対話の仕方	70%	79%(+9)	85%(+6)	80%(-5)
協働性	91%	88%(-3)	92%(+4)	92%(±0)
積極性(他者)	87%	87%(±0)	89%(+2)	88%(-1)
自己有用感	58%	67%(+9)	68%(+1)	71%(+3)

※R3からR4は質問文の見直しを行ったため、単純に比較できない項目もある。

4. カリキュラム評価 — 自己評価質問紙調査(教職員の評価)

「とてもそう思う」+「少しそう思う」	R4.11	R5.11	R6.11
主体性	98%	86% (-12)	93%(+10)
粘り強さ	98%	86% (-12)	76%(-5)
アプローチの多様性	84%	82% (-2)	83%(+7)
他者理解	93%	98% (+5)	86%(+5)
対話の仕方	79%	70% (-9)	83%(+16)☆
協働性	90%	93% (+3)	83%(±0)
自他の価値	92%	93% (+1)	93%(+7)
積極性(他者)	98%	98% (±0)	95%(+5)
積極性(社会)	59%	55% (-4)	76%(+29)☆
自己有用感	85%	77% (-8)	90%(+26)☆

☆・・・過去3年間の調査の中で最も高まった項目

ご清聴ありがとうございました



年間指導計画・単元計画などは本校ホームページ「研究会情報」をご覧ください。

<https://www.fuzoku.gifu-u.ac.jp/>